

2023年3月期業績予想の修正並びに 配当予想の修正及び減損損失計上に関するお知らせ

2023年5月10日

代表執行役社長 兼 CEO

大幸 利充

減損損失計上の経緯

- 新体制のもと、戦略的新規事業の収益改善の取り組みに注力
- 当期末の収益のマイルストーンを設定
- 過去の買収を中心とした投資（技術資産、のれん・無形資産、固定資産、資源配分など）の精査を実施
- 国際会計基準（IFRS）に基づく減損テストを実施した結果、第4四半期に減損損失を計上する見込み

今後に向けて

- 過去から決別し、戦略的新規事業の位置づけを見直し、事業の選択と集中に取り組む
- バランスシートおよびキャッシュ創出力の改善が急務
- 過去の反省と学びを経営に最大限に生かし、社長としてコニカミノルタを再び成長軌道に乗せるため、全力を注ぐ

- 売上高と減損損失を除く営業利益は前回見通しを上回って着地
- プレシジョンメディシン分野他で、のれんおよび無形資産などの減損損失を計上する見込みのため、営業利益および当期利益の業績予想を修正
- 業績予想の修正に伴い、当社が複数の金融機関と締結しているシンジケートローン契約等に規定する財務制限条項に抵触する見込みとなったが、当該抵触を理由とする期限の利益喪失請求を行わないことについて、該当するすべての金融機関より承諾を取得済み

【億円】

	2022年度 見通し (今回)	2022年度 見通し (減損除く)	2022年度 見通し (前回)	2021年度 実績	対前年 増減率
売上高	11,300	11,300	11,200	9,114	+ 24%
営業利益	△ 950	210	150	△ 223	-
親会社の所有者に帰属する 当期利益	△ 1,050	100	55	△ 261	-
為替レート [円]					
USD	135.5		135.0	112.4	
EUR	141.0		140.0	130.6	
RMB	19.8		20.5	17.5	

以下の資金生成単位において当初計画から乖離があるため、のれん含む資産の減損損失1,166億円を計上する見込み

● プレシジョンメディシン分野	1,036億円
● MOBOTIX関連	81億円
MOBOTIX社単体	37億円
画像IoTソリューションシナジー	32億円
QOLソリューションズシナジー	12億円
● その他	50億円

配当方針

剰余金の配当等の決定に関する方針といたしましては、連結業績や成長分野への投資、キャッシュ・フローなどを総合的に勘案し、配当を基本として利益還元の実に努めることを基本方針としております。

2023年3月期の配当予想

上記の業績予想や経営環境を踏まえ、総合的に勘案した結果、誠に遺憾ではございますが、2023年3月期の期末配当予想につきましては無配とし、年間配当予想を10円/1株（中間10円/1株、期末無配）とさせていただきます。

	中間	期末	合計
前回予想	10円	10円	20円
今回修正	10円	0円	10円

業績予想を大幅に下方修正したこと、及び期末配当予想を無配としたことに鑑み、下記のとおり役員報酬を一部自主返上いたします。

対象者、報酬返上額及び期間

代表執行役社長兼CEO：	月額固定報酬の30%、2023年4月から12カ月
執行役会長：	月額固定報酬の30%、2023年4月から3カ月
専務執行役及び常務執行役*：	月額固定報酬の10%、2023年4月から3カ月

*2023年4月1日現在の執行役

プレジジョンメディシン 分野



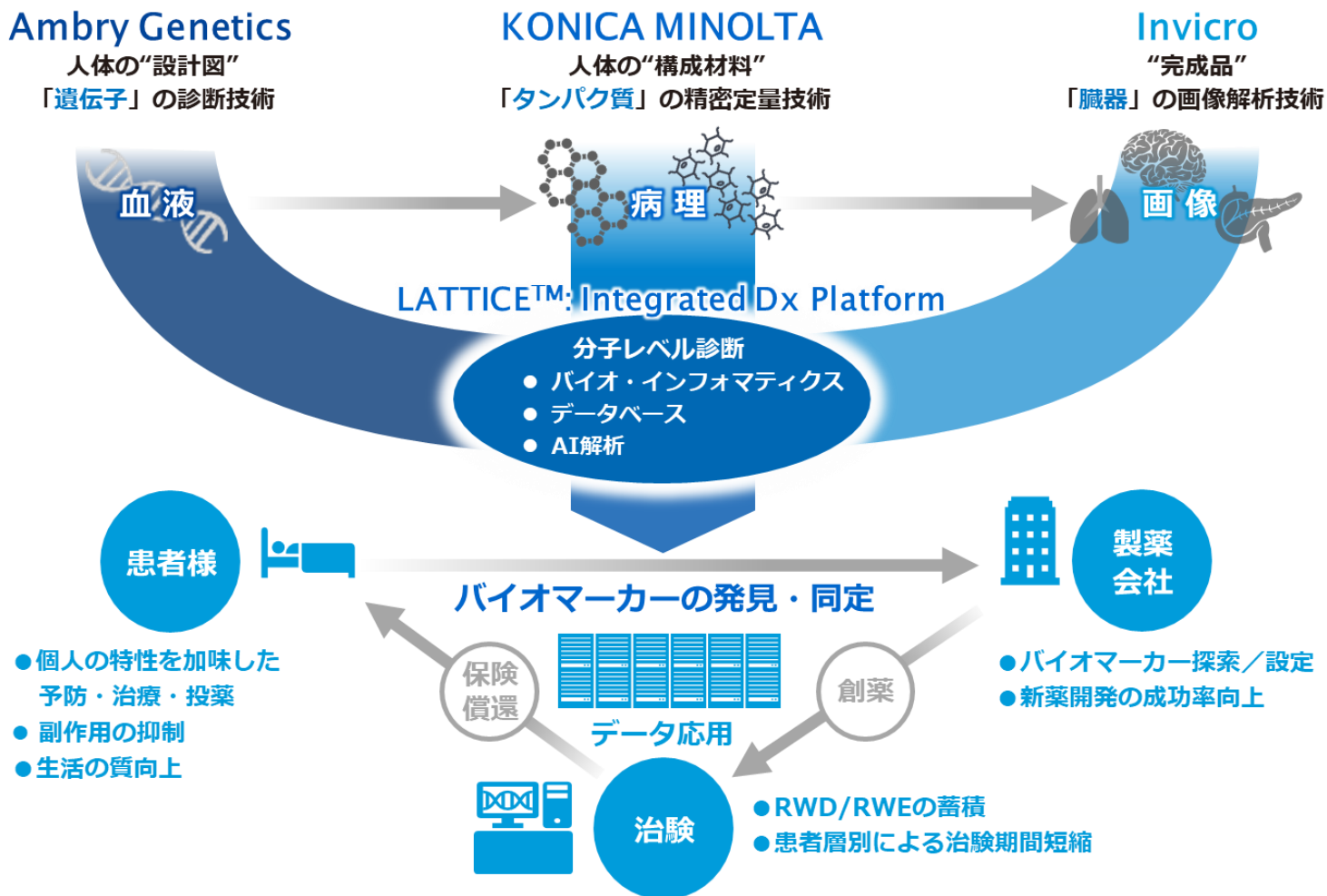
- 当社のマテリアリティの一つである「健康で高い生活の質の向上」に寄与
- 米国遺伝子検査市場の競合環境の変化、COVID-19拡大の影響、臨床試験の中止や遅延などにより、直近では事業成長機会が当初期待を下回って推移。当期は収益性重視に転換し、構造改革を実行した結果、当第4四半期では、Ambry Genetics社、Invicro社それぞれ個社で黒字化
- 米国において株式公開準備を開始したが、金利上昇等に伴う証券市場の環境変化を受け、株式公開の時機を見計らっていた
- 日本では東京大学、国立がん研究センター研究所と共同でGenMineTOP がんゲノムプロファイリングシステムを開発し、製造販売承認を取得
- 競合環境の変化、米国でのCOVID-19拡大の影響、他社との協業などの自社戦略の実行遅延などを踏まえ、当事業の計画の見直しを実施。また、直近の金利上昇により減損テストに使用する割引率が上昇したため、回収可能価額が大幅に低下したことにより、当第4四半期において、のれん含む無形資産の1,036億円の減損損失を計上する見込み

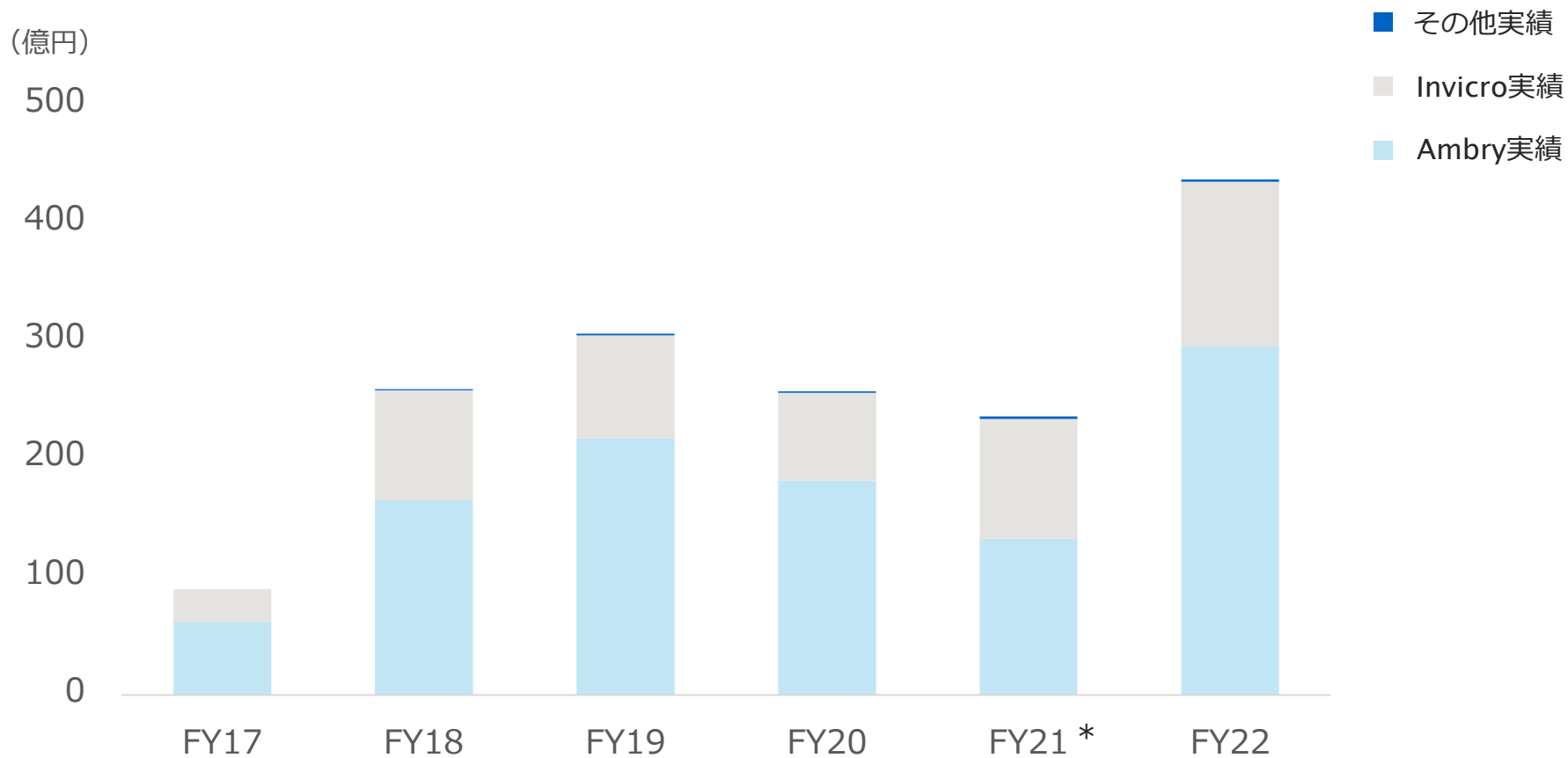
REALM IDx



	Ambry Genetics	Invicro	コニカミノルタ REALM
主な事業内容	遺伝子検査	イメージングCRO	がんゲノムプロファイリング検査
買収時期	2017年10月	2017年11月	(2018年7月創立)
強み	RNA検査による高精度検査	中枢神経領域の薬効検出技術	がん関連DNAとRNAの変異を検出
拠点	米国カリフォルニア州	米国マサチューセッツ州	日本 東京都
売上高 (2022年度)	約300億円	約140億円	約2億円

- プレジジョンメディシン分野への本格参入
- イメージング技術、遺伝子解析技術、タンパク質解析技術（HSTT/Quanticell）を融合した価値提供
- 患者と製薬会社をターゲットとしたヘルスケア分野での高収益事業の構築





COVID-19影響
医療従事者不足による遺伝子
検査伸長遅れ/CARE進展遅れ

協業施策
遅れ

* Ambry Genetics : FY21Q4末で売掛金回収見込額の見直しによる売上の減額を計上

Ambry Genetics	遺伝子検査領域における実績 ✓ RNA検査領域でのプレゼンス拡大 ✓ CARE Programの展開 創薬研究開発における遺伝子検査領域での貢献
Invicro	多数の医工学優秀人財によるアルツハイマー薬上市への貢献
コニカミノルタ REALM	東京大学、国立がん研究センター研究所と共同で、 GenMineTOP がんゲノムプロファイリングシステムを開発、 製造・販売承認の取得

- 今後も高い市場成長率を期待するとともに、医療の発展に貢献できる事業
- 高収益モデルを追求する一方で、成長投資に対する原資を継続して確保する必要性
- REALM IDxの社会的価値が大きく、長期的に潜在的な成長力のある領域ではあるが、米国株式市場への上場に加え、第三者への事業譲渡も含めた戦略的選択肢の検討を進める

- 2023年3月期 決算説明・中期経営計画説明

日時：2023年5月15日（月）16時～17時30分予定

形式：オンライン



KONICA MINOLTA

150

YEARS

- **本資料の記載情報**

本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。

- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**

本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。